

公開講演会

AI時代の民主主義

— 民意をどう反映するか —

政治参加研究において、選挙は従来、制度化された参加の形態として捉えられ、投票行動や政党による選挙運動などが主な分析対象とされてきました。しかし、SNSやAIが急速に台頭する現代社会では、制度の「外」から発信される非制度的・個人的な参加の形態と、その影響力にも注目が集まっています。

本講演会では、選挙報道に長年携わり、「AIネイティブ」ともいわれる α 世代（2010～2024年頃生まれ）の動向にも詳しい講師をお招きします。まず、「制度」としての選挙、すなわち制度設計が政治のあり方をどのように左右するのかについて解説していただきます。そのうえで、SNS時代・AI時代における民意の新たな反映のあり方について、その可能性と危険性を議論します。

講師

MIYASAKA Shotaro

宮坂正太郎 氏

日本経済新聞社

政策報道ユニット政治・外交グループ部次長
兼 データ・調査報道センター

2005年、北海道大学文学部卒、日本経済新聞社入社。

熊本支局、電子報道部などを経て政治部。首相官邸の担当や外務省と与野党のキャップ、衆参両院選挙の統括、デスクを務める。

2023年、米国コロンビア大学ジャーナリズム大学院のデータ報道プログラム。

2026年、正月1面連載「 α —20億人の未来」の担当デスク。

2026（令和8）年 10 月 23 日 【金】

時間

16：30～18：00

会場

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
4階 407会議室

司会

渡部 聡子

メディア・コミュニケーション研究院 准教授

申込み

二次元コードまたはWEBフォームからお申し込みください
<https://forms.gle/zfFEk3YuGTUTA9S29>



本講演会は科研費若手研究24K20981「就労概念の拡張と学校外教育：ドイツにおける『包摂』の組織的推進を中心に」（研究代表者：渡部 聡子）の一環として行われます